

# しんらん同人

No.570

9・10  
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-39550-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

## われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

コロナによる学校閉鎖のため、ベトナムから誓願寺に一時帰国していただきました孫たちが、十ヶ月振りにベトナムに戻りました。

前日のお別れ会は「寂しいけれどもまた会えるからね」と再開の言葉で終わることが出来ました。

会うは別れの始めであり、別れは次に出会うことのはじまりでもあるのです。「さよなら」ではなく「またネ」であり、この言葉は私達に、お別れの寂しさではなく再会への希望を与えてくれる言葉です。

仏教では、私達の命は一回だけの命ではなく、遠い昔から六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間界・天界）を、生まれては死に、生まれては死にを繰り返して（輪廻して）いと教えています。

その中で、大切な大切なこの私達が、次こそは、この輪廻の輪から抜け出して、悟りの世界お浄土にいかにして生まれるかが問われているんだと知らしめて下さいます。

一方で、お浄土に生まれる道は沢山あります。その中ですべての人々が救われる他力の道を成就されたのが「阿弥陀如来」であり、その教えを伝えられたのが、正信偈にある七高僧であり親鸞聖人でもあります。

日々の別れ。今生での別れ。「さよなら」ではなく「またネ」であります。



合掌

## 2022年 お越しいただいた先生方 /

～今後も様々な先生方にお越しいただく予定です～



佐々木善信師



三島見真師



上野隆平師



渡辺幸四郎師



鳥見浩憲師



藤澤三憲師

二ヶ月前に体調を崩しレントゲン検査の結果、肺癌の診断を受け、その後一回目の放射線治療後お寺に戻った時の法座でのお話。

(昭和六十一年五月十八日 逝去の八ヶ月前)



誓願寺初代住職  
故 岡本 泰雄

## いのちの ある限り

ちようどおととい二日間の治療が終わり、時間が三・四日空きますのでうちに帰るお許しを得て帰って来たわけでありませす。

丁度永代経のご法要が勤められるということで、皆さんと最後のお別れになるかもしれないので、お参りだけさせて頂こうと今回参らせていただいたわけでありませす。

お勤めしながら、大変長い間お世話になった皆様方のご恩を思ひますと、何となく胸が詰まってまいりました。

自分ながらおかしいなと何べんも言い聞かせながら、どうに

もしようのない気持ちでございます。

何故こういう風に悲しまずにはおれないのかということを考えてみました所。自分自身が、死んでいくということ、それが悲しいんだというようではないようでございます。

本当に自分はどうなるかという事を考えてみますと、今までお聞かせて頂いておりますように、間違いなくお浄土に参らせていただく。私の値打ちで参るのではなくて、如来様の一人働きで、私のようなものも、お浄土に参らせていただくんだと。その点は本当にありがたいことに安心させて頂いておるのですが、今まで四十年、五十年と親しく付き合って下さって、私のことを色々ご心配下さった皆様方とお別れするということが、辛いというか、それでついこういう情けない姿になってしまうのだなあと思ひます。

しかしながら、我々はいつもお聞かせ頂くように、この人生というのは、本当に無常の世界でありまして、いつまでも共に生きるという事は出来ないわけで、一人一人の自分の業によって、人生を、皆さんとさよならして行かなくてはならないのであります。

それが現実に今私の身にかかろうとしているのであります。私自身は、行くべきところを、落ち着くべきところを与えて頂いておりますので、お念仏とともにそこまで生き抜かせていただく。

やがてお浄土に参らせて頂くんだと、そうしますと、実は自分で書いたのですが、ここにあります「俱会一処」という額。あれは俱(ともに)に一つの所に居るといふことなんです。

阿弥陀経の中にある有名な言葉であります。

共に一つの所に会う！一つの所というのはお浄土ですね。共に一つの所で会わせていただくんだ、お浄土でみんな一緒にさせて頂くんだということでありましょう。

この「俱会一処」という文字を見ておりましたら、なるほど私の父も母も兄弟たちも、あるいは知り合いの沢山の人も、もう行かれた人が本当に多いのですね。みんなお浄土に参られて、むしろ向こうの方がこちらの生活よりもぎやかになっているんじゃないかと・・・というような気も致します。

だから父も母も友達もみんな向こうへ行つて、お浄土に参らせて頂いた方々ばかりであろう、ということが、字を見てしみじみ感ぜられました、ここまで一緒に来た皆さんとさよならすることは寂しいけれど、それもやがてはお浄土でいっしょさせて頂く世界があるのだなあと、こう考え直してみますと、ただもうお念仏を申すよりほかないのであります。

今日はまだ本当に何もはつきりしておらんのに、はつきりしたような気持ちになって、皆さんとお別れしなきゃならないという私の気持ちの上から、おそらく最後のご法座になるような気がしてこのような話になったわけです。

どうぞこれは他人ごとではありません。やがては皆さんのお一人お一人の上に必ずやって来る問題です。

しかしいつ来てもよろしいという、そういう安心を頂いておるといふことは、本当に幸せなことだと思いますね。

それにはただひたすら、お念仏を申して「ただ念仏して弥陀に助けまいらすべし」とよき人の仰せをこうむりて、信ずる」よ

り他にはないのであります。

お体を大切にお大事になさいますして、命の限りお念仏とともに生き抜き、最後はお浄土に参らせていただく身にさせていたたくように、切に念ずる次第でございます

自分のことばかり申し上げて恐縮ですが、ひよっとしたら、最後になるのじゃないかと思ひ失礼いたしました。本当にこれまで有難うございました。



〔故 岡本泰雄師 法話風景〕

ご法座等  
のご案内

関東地方にコロナによる緊急事態宣言が発令されている期間は、諸活動を中止致します。ただし蔓延防止期間中は活動の予定です。詳細は「ホームページ」等でご確認ください。

9月

9・11(日)

■午前十時～  
定例法座・婦人会物故者追悼法要  
【平田聖子師(愛知県)】  
【正午～  
医療相談  
【佐藤公彦医師】

9・25(日)

■午後一時～  
彼岸会・祥月命日合同法要  
【古賀明徳師(誓願寺副住職)】

10月

10・9(日)

■午前十時～  
定例法座  
【上野隆平師(京都府)】  
【正午～  
医療相談  
【佐藤公彦医師】

10・16(日)

■午前十時～  
なかよしクラブ  
(乳幼児から小学生までとその保護者)

10・23(日)

■午後一時～  
定例法座・祥月命日合同法要  
【福田了潤師(山口県)】

編集後記



・今回は「お別れ」について考えさせていただきました。その上で、今を精一杯生きることの大切さを思うのでした。  
・お同行の岡山さんが百歳を迎えられました。早朝の散歩と体操を日課にされ、お寺にも徒歩でいらっしゃいます。運動不足の日常を反省しました。

・九月のご法座のご講師・平田聖子師のコンサートご案内を同封致しました。オンラインでの視聴も出来ます。ご検討ください。

・来年一月末、ベトナムの正月休みでの帰国再会を期待しつつ法務を元気に取り組みましょう。



〔ベトナム帰国前に富士山へ旅行に行きました〕



〔ラフティングにも挑戦!〕



〔ベトナムへの帰国日。「またネ」でお別れ〕